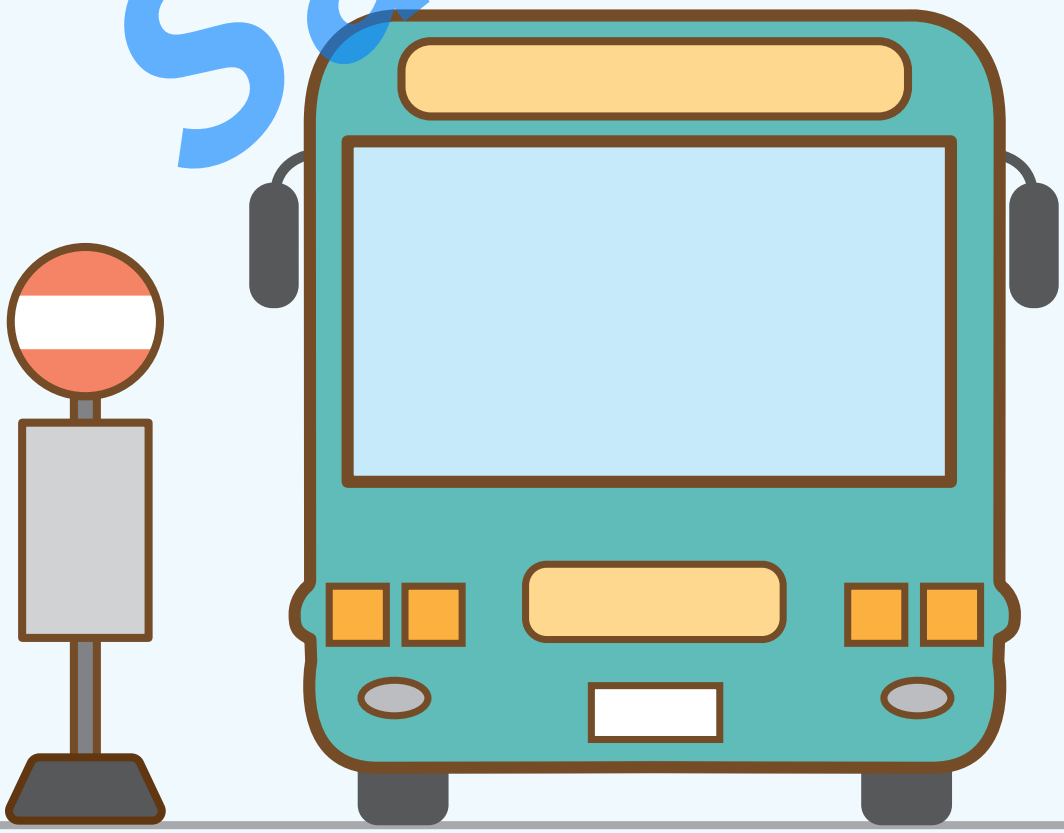
初任運転者教育テキスト

旅客自動車乗務員用

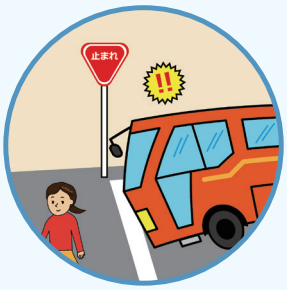








sample







目次

Mission
1 事業用自動車の安全な運転に関する基本的事項

Ⅰ. 二種(旅客)運転者になるということ …… 1
Ⅱ. 交通ルールを守ること …… 2
Ⅲ. 乗務員として選任されるための手順 …… 3
Ⅳ. 点呼の受け方 …… 6
Ⅴ. 出発前にチェックすること …… 9
Ⅵ. 運行指示書の内容を遵守する …… 10
Ⅶ. 過労運転を防止する …… 12

Mission
2 事業用自動車の構造上の特性と日常点検の方法

1. 日常点検の方法
Ⅰ. 日常点検基準 …… 18
Ⅱ. 日常点検の手順① エンジンルームのチェック …… 19
Ⅲ. 日常点検の基準② タイヤのチェック …… 20
Ⅳ. 日常点検の手順③ 運転席まわりをチェック …… 21
Ⅴ. 日常点検の手順④ その他のチェック …… 23
2. 事業用自動車の構造上の特性
Ⅵ. 死角を理解する …… 24
Ⅶ. 内輪差を理解する …… 27
Ⅷ. 車両の大きさを理解する …… 28
Ⅸ. 注意の配分 …… 29

Mission
3 運行の安全及び旅客の安全を確保するために留意すべき事項

Ⅰ. 旅客の乗降時の安全確保 …… 31
Ⅱ. 急のつく運転をしない技術 …… 34
Ⅲ. 車間距離とお客様の状況 …… 39
Ⅳ. 交通事故原因ベストテン …… 41
Ⅴ. 事業用自動車の乗務員としてのマナー …… 43
Ⅵ. 飲酒運転の恐怖 …… 45

Mission
4 危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法

Ⅰ. 危険予測運転とは? …… 49
Ⅱ. 危険予測運転の必要性 …… 50
Ⅲ. 危険予測運転の基本 …… 52
Ⅳ. 相手の特性を知る① 子供編 …… 53
Ⅴ. 相手の特性を知る② 高齢者編 …… 54
Ⅵ. 相手の特性を知る③ 自転車編 …… 56
Ⅶ. 相手の特性を知る④ バイク編 …… 57
Ⅷ. 気象状況に潜む危険を知る① 雨天時 …… 58
Ⅸ. 気象状況に潜む危険を知る② 降雪・積雪時 …… 59
Ⅹ. 気象状況に潜む危険を知る③ 濃霧時 …… 60
Ⅺ. 気象状況に潜む危険を知る④ 強風時 …… 61

Mission
5 安全性の向上を図るための装置を備える貸切バスの適切な運転方法

Ⅰ. 安全に止まる技術 …… 62
Ⅱ. 安定して走る技術 …… 63
Ⅲ. ドライバーをアシストして停止する技術 …… 64
Ⅳ. 積極的に車を止める技術 …… 65

Sample

Mission 1 事業用自動車の安全な運転に関する基本的事項

I. 二種（旅客）運転者になるということ

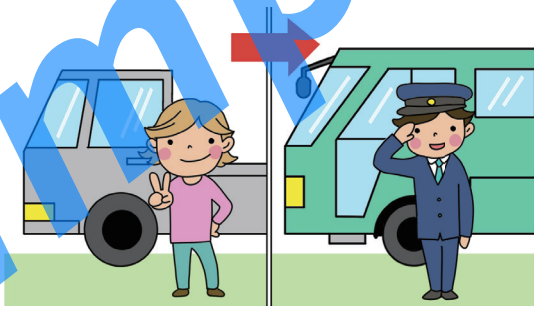
Check Point!

この時間に勉強して欲しいこと

1. 二種免許ドライバーはプロフェッショナルと認識される職業であること
2. 他のドライバーや子供たちのあこがれの仕事であること

1 二種免許は特別なライセンス

二種免許は人命を直接預かるための免許です。
もちろん、どんな自動車であっても人命を乗せていることには変わりはありませんが、二種免許が必要な事業用自動車の運転者というのは、特別なライセンスの持ち主であることを意識しましょう。



2 二種免許は日本の道路で最高峰のライセンス

二種免許は一種免許を取得してから、ある一定の期間を経なければ取得することができません。
つまり、路上において一定の経験を積んだエキスパートだけが挑戦できるライセンスと言えます。 特に多くの旅客を同時に乗せて走る、大型バスを運転することのできる「大型二種免許」は日本の道路で最高峰のライセンスと呼ぶことができます。

3 バスドライバーは昔から子供たちのあこがれ

乗用車を運転しているドライバーに「運転のプロとは?」と尋ねると、「大型トラックのドライバー」「大型バスのドライバー」と答えるでしょう。
大人から見てもプロフェッショナルと言える大型トラックやバスのドライバーは、昔から子供たちのあこがれの職業です。 ぜひ皆さんはこの点を十分に意識して、周囲のドライバーのお手本であり、子供たちのあこがれであり続けるように努力してください。



知ってて得する用語の解説

二種免許

正式には第二種運転免許と言います。
バスやタクシーなど有償で旅客を輸送するためや、運転代行の代行車を運転するためにも必要です。

Sample

II. 交通ルールを守ること

Check Point!

この時間に勉強して欲しいこと

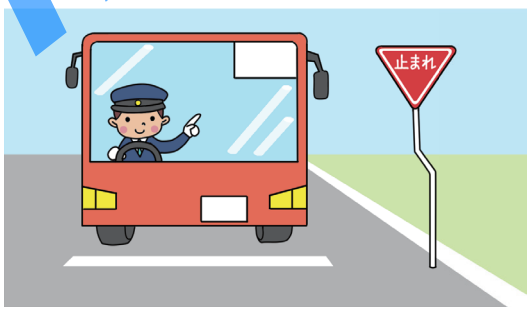
1. 旅客自動車にとってなによりも大切なことは安全であること
2. 二種ドライバーは周囲の手本となり、交通ルールを厳守する必要があること

1 まずは無事に旅客を送り届けること

プロドライバーにとって、もっとも大事な仕事は無事に荷物や旅客を目的地に届けることです。
そのために厳守しなければならないのが、交通ルールです。
安全な運行のために、まず交通ルールを守ることからはじめましょう。

2 あたり前のルールをあたり前に守ること

路上にあふれる交通標識や標示は、交通の安全を保つためのルールが示されたものです。
このルールは安全を維持するために守るべき、あたり前のことが決められたものです。
皆さんは二種ドライバーとして、このあたり前のルールを率先して守るように心がける必要があります。



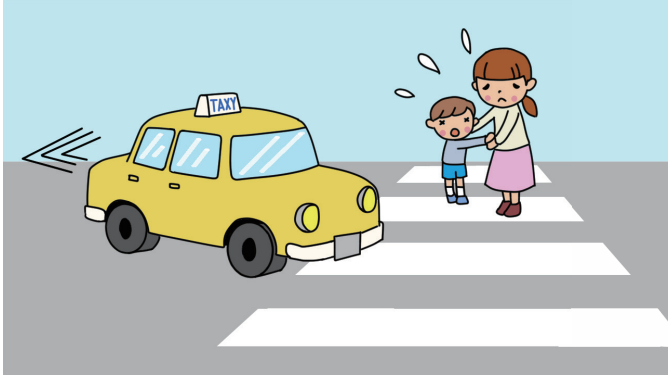
知ってて得する用語の解説

標識と標示

標識は表示板のことを言います。
標示は路面にペンキや鋲で示された文字や記号などを言います。

3 歩行者保護がもっとも大事

皆さんがこの初任運転者教育を終えて、プロドライバーとして路上に出たときに、もっとも大切に考えていただきたいのは、歩行者の保護です。
最近、横断歩道上や通学路でのお子さんの事故が増えています。
また、高齢者の増加によって、交通ルールを無視するご老人も少なくありません。
皆さんはプロドライバーとして、お子さんやご老人などの交通弱者はもとより、すべての歩行者の保護を第一に考えて運行しなければいけません。



Sample

III. 乗務員として選任されるための手順

Check Point!

この時間に勉強して欲しいこと

1. バス乗務員になるための手順を理解すること
2. 乗務員教育の意義を知ること

1 バス乗務員になるための手順

二種免許を取得して、バス会社の面接に合格したのに、すぐにバスに乗れないの？そんな気持ちでこの授業を受けている皆さんも多いのではないでしょうか？

皆さんはこれからプロドライバーとしてバスに乗務するわけですが、その前にこの教育を含む様々な関門を通過する必要があります。
この時間はその手順について知っておきましょう。

手順1

法律で定められた内容の健康診断をうけることになります。
※一部免除される場合がありますので、採用担当者に確認してください。

3ヶ月前までのものであれば、その診断書を利用できることがあります。

手順 2

選任されるまでの間に専門機関の初任診断を受ける必要があります。
※年齢によって受ける診断内容が違う場合がありますので、採用担当者に確認してください。

初任診断の他に、適齢診断、特定診断があります。

知ってて得する用語の解説

採用と選任

バス会社に応募して、正式に社員として雇用されることを「採用」と言います。将来作成されるあなたの乗務員台帳の雇用年月日の欄にこの日付が記載されます。
一方、選任と言うのは、採用が決まって様々なプロセスが終了した上で、正式にバス乗務員として任命されたときのことを言いますので、早くても採用から1週間程度の時間が必要になります。この日のことを選任日と言って、この日付も乗務員台帳に記載されます。

Sample

手順 3

社内の初任乗務員教育を受けます。
座学が１０時間以上、実地訓練が２０時間以上の合計３０時間以上と決められています。



手順 4

実地訓練のドラレコ映像を見ながらの座学を行います。

手順5

2で受けた専門機関による診断の結果を受けて、特別教育を行います。

これらプロセスが終了して、初めて旅客自動車の乗務員として会社から選任されることになります。



知ってて得する用語の解説

初任診断

会社に入社して初めてバスを運転するドライバーが受診するものです。

適齢診断

６５歳以上の高齢ドライバーが受診するものです。６５歳以上の二種免許保持者が入社した場合には、この適齢診断を受診すれば初任診断を受診したものとみなされます。

特定診断 Ⅰ Ⅱ

直近に事故をおこしたドライバーが受診するためのものです。事故の重さや頻度によってⅠとⅡに分かれます。

Sample

得 知っトクコラム

健康診断の項目

皆さんが入社したときに受ける健康診断。
それぞれの検査にはどんな意味があるのでしょうか?

健康診断項目	検査の意味
問診	お医者さんとの会話で生活習慣や今までにかかった病気のことなどを把握します。
基本健診	身長、体重、視力、腹囲、および聴力の検査をします。
胸部X線検査	肺や気管に異常がないかをレントゲンで調べます。 何か異常があった場合は、後日精密検査を受けることになります。
血圧の測定	血圧の測定によって、心臓や血管など、循環器系の異常を発見できることがあります。
血液検査	貧血検査・肝機能検査・血中脂質検査・血糖検査
心電図検査	心臓の状態を調べます。
尿検査	尿の状態を調べることで、腎臓の状態やその他の臓器の状態も把握することができます。

Sample

Ⅳ. 点呼の受け方

Check Point!

この時間に勉強して欲しいこと

1. 車両と乗務員、どちらも健康であることが大事
2. 点呼は自分を守ってくれる手段、正直に答えることが大事

Sample

1 日常点検

乗務員が出社して最初に行う作業は、自分の乗るバスの日常点検です。
なぜなら、車両の調子が悪ければどんなに仕事がたくさんあっても、運行そのものが不可能だからです。
皆さんは、車庫で本日乗務する車両の状態を、決められた手順で点検しなければなりません。

日常点検が終わったら、営業所の整備管理者に点検表を確認してもらいます。
整備管理者は会社から任命された資格者で、事業用の車両が運行していいかどうかを決める権限を持っています。
整備管理者の確認が終わったら、次は点呼を受けましょう。
※会社によっては、整備専門のスタッフが日常点検を行う場合があります。



2 点呼

会社によって確認の順番は違いますが、点呼は乗務員の皆さんの体調や健康状態をチェックするために行います。

点呼内容

アルコールチェック	専用の機械を使用して行います。 法令の定めでは、呼気1リットル中0.15㎎以上が酒気帯び運転になりますが、乗務員のアルコールチェックでゼロ以外の数値は認められません。 勤務後に飲酒することは止められませんが、自分の体調をよく理解して、点呼時のアルコールチェックに引っかかるようなことだけはしないようにしなければなりません。 
体調に関する質問	点呼を行うのは、会社から任命された運行管理者、ないしはその補助者です。彼らの仕事は、皆さんの体調を確認して、運行できる状態かどうかを把握することです。 皆さんは、点呼者から聞かれた質問に正確に答えなければなりません。 もしも体調が万全でないのにそのことを申告せず乗務した結果、大きな事故をおこした場合、皆さんが刑事上の責任に問われることがあります。
睡眠に関する質問	睡眠に関することも質問されます。 睡眠時間は人によって適正な長さが違いますが、眠りの質などを問われる場合もあります。
その他点呼ですること	点呼では、その他に日ごろの体調などについても聞かれます。 病気をしたことがある方などには、その後の状態について聞かれることもあります。

Sample

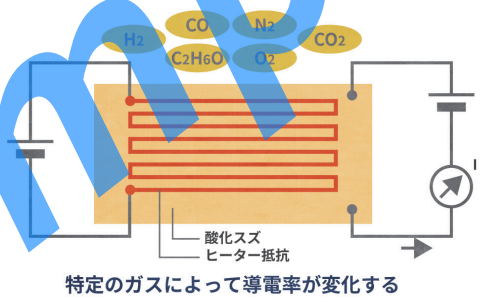
知っトクコラム

アルコールチェッカーのしくみ

アルコールチェッカーには大きく分けて2つの方式があります。
ひとつは半導体方式、もうひとつは燃料電池方式です。

半導体方式	半導体方式は十分に熱した酸化すずをセンサーとして利用します。熱せられた酸化すずの上にアルコールが吹き付けられると、この酸化すずの上を流れる電流に変化がでます。 この電流の変化の大きさを、呼気アルコール濃度として測るのが半導体方式です。
燃料電池方式	呼気中のアルコールを利用して電気を発生させることでアルコールを検知します。

半導体方式



特定のガスによって導電率が変化する

- 知っトク
  値段は半導体方式の方が安い。
  計測制度は燃料電池式が高い。

- なぜ15秒待つの？
  内部のセンサーを熱するのに時間がかかるのです。

Sample

点呼のポイント

①点呼は対面が基本です。

泊り運行などの例外を除いて、点呼は対面で受けなければなりません。

②点呼は朝の1回だけではありません。

【運行前点呼】

運行前に体調確認や今日の仕事についての打ち合わせをします。

【中間点呼】

業務の途中で点呼が入ることもあります。

・途中に長い休息が入った場合
・泊り運行の途中

【運行後点呼】

体調に関することはもちろん、事故や異常の有無を含む、当日の運行について報告します。